

中学生がつくる冒険あそび場「ワンダふるたパーク」を見学しました。

2023年12月10日(日)に、広島市西区古江西町公園にて「このまちにкраしたいプロジェクト」の主催イベントを見学しました。この催しは年に4回実施され、今年10周年を迎え当日も大盛況となりました。



会場は中規模の街区公園ですが、お昼前にはスタッフを含め400人以上の親子連れで溢れました。催しにはプロジェクトスタッフと地元中学生のノウハウが詰まっていた。



古田地区の中学生が「公園の在り方」を考え、子どもだけでなく多世代が集う冒険あそび場を作り上げます。「想像力」や「冒険心」を働かせ、危険に対して「注意する力」を育てつつ、自分の責任で自由に遊ぶ場所を目指しています。実際、子ども達は目を輝かせ、夢中になって遊びます。



この古江西町公園活用イベントの基本プランは3つです。①冒険あそび場のある公園（幼児や小学生に大人気）②大人もくつろげるカフェのある公園（大人もゆっくり楽しめる）③にわか大道芸を体験できる公園（幅広い世代で楽しむ）です。この3つを軸に、年4回開催に向けワークショップと会場準備を行い、中学生主体の地域活動として認知が広がっています。

●活動を支え、定着化・新たなひろがりにつなげていくプロジェクトスタッフ



プロジェクト発足時からのメンバー、大坪さんは長年古田地区で複数の地域活動を行っています。今はそれらの活動を連携させ企画を深めていきます。今回は町内会や子ども会、幼稚園・小学校等と連携、「古江いちじくフェスタ」「餅つき大会」を特別行事として追加し、大人も楽しめる賑わいの場を創出しています。また、活動が定着していく中で、視覚障がい者ボランティア団体や大学生による体験コーナーが加わり多様な世代間交流が広がってきました。その上、今回は好天に恵まれ例年を超える人出に繋がりました。でも、こうなる迄には毎回の試行錯誤から得た大事なノウハウがあるようです。



●スタートから10年。子ども達と共にノウハウを蓄積、中学生本格参加で広がりが加速



町の公園を活性化する取組みが、これほど継続実施されるのは実は以外と少ないそうです。この取組みが地につき軌道に乗ったのは、4年前に地区中学生が全面参加するようになった頃からだそうです。PTAや先生方が準備段階から関わり、当日も来場し生徒を見守り、次回に向けちょっとした反省会を行います。これが子どものやる気と達成感を生み、大人も巻き込んだ地域の交流イベントに成長しているのではと感じました。

受付は運営ノウハウが詰まっています。一方で運営を支えるプロジェクトスタッフには10年で培った拘りのポイントがあるそうです。まず現場で実感できるのが、公園内にイスやテーブルが多数配置されていることです。子ども達は公園内を自由に遊びまわっていましたが、その背後で親御さんがテントで配られる「無料」のドリンクやお餅など手に、腰かけ談笑、あるいは黙って子供を見守る姿が印象的でした。会場には午前中からたくさんの方が来ましたが、このことも手伝ってか午後迄滞留する親子が多かったように感じました。もう一つ、裏方機能がしっかりしています。受付は来場者数・名前の把握、参加許諾事項確認、寄付金受付、回答内容を重視した定数アンケート取得徹底等を行っています。運営スタッフへの賄い食の提供もあり、人材の確保にも一役買っています。

最初は閑散とした地元の公園に賑わいをと始めたプロジェクトでしたが、この体験をした子供が、いつか担い手となり各地で活躍してもらうことが一番の目標に変わってきたとのことでした。認知度がアップし来場者が増えた今、目下の課題は「物価高騰による経費上昇」だそうです。



いちじくプロジェクトの発表を大人は後ろでゆったりと見守る



冒険あそび場 落葉の山もみんなで片付け

「このまちにくらしたいプロジェクト」は古田地区の中学生が住みなれた地域で、多様な世代が共生できる持続可能な将来像を描き古田公民館を拠点に2013年活動開始。価値観や生活様式の変化、様々な規制で利用者が減少した街区公園のあり方を「みんながしあわせにつかえる公園・あそび場づくり」をテーマに再生させる活動を推進。

(2018年文科省優良公民館表彰「最優秀館」、2022年国交省「まちづくりアワード(功労部門)」受賞)